

場所 岩手県一関市

面積 39.2057ha

活動目的 侵略的外来種の防除と希少種の保全を中心とした自然再生事業を行い、生態系サービスの文化的サービスを活用して自然環境学習などを行い地域の活性化を図る。

サイト概要 岩手県一関市萩荘巖美の久保川イーハトーブ世界は、北上川水系磐井川の支流、久保川流域の地域である。流域には約600個のため池が点在し、棚田、斜面林と河川の小規模な氾濫原というランドスケープ規模で良質な生物多様性が残され、その保全が急務である。そこで、2009年に久保川イーハトーブ自然再生協議会を設立し、実践的な取り組みを地域内外の多様な主体との協働によって実施。サイトについて、知勝院第一・三墓地は落葉広葉樹林の保全再生と耕作放棄地のビオトープ化、第二墓地は放牧地における落葉広葉樹林の再生、玉叢苑自然再生実践・実験地は希少動植物の保全に特化した耕作放棄地のビオトープ化によるため池の造成、曲淵自然観察林は落葉広葉樹林と湿原の保全再生を実施。



土地利用の 変遷

開拓農地は開拓初代の高齢化により早くから耕作放棄地となっている。それら（8軒の放棄農地）を地元の寺（知勝院）が里地里山の保全のために購入し、久保川イーハトーブ自然再生協議会がそれらの土地を借用してビオトープ化し、自然公園化して地域の活性化を目指している。

サイト周辺の 環境

岩手県一関市西部の中山間地域に位置する。申請サイト一帯のほとんどはシイタケ栽培のために利用されたコナラ、アカシデを中心とする丘陵地帯で杉人工林は少ない。丘陵面は昭和20年以降、開拓により多くの雨水だけに頼る溜池による棚田が造設された。

アピール ポイント

自然再生推進法による実施計画によりウシガエルなどの防除をおこない、希少種の保護活動を行うと共に新たに溜池を増設し水生生物などの避難池としている。ウシガエル防除では住民による協力もいただいている。これらの活動は大学生などの自然観察研修などに役立たせている。

生物多様性の価値

価値（1）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

【選定されている制度名】

2015年 久保川イーハトーブ世界として「生物多様性保全上重要な里地里山」（環境省）に選定

2008年 萩荘・巖美の農村部として「にほんの里100選」（森林文化協会）に選定

2009年 当協議会の活動が「第一回プロジェクト未来遺産」（日本ユネスコ協会連盟）に登録

2010年 久保川流域のため池群として「ため池百選」（農林水産省）に選定

2020年 久保川流域として「生物多様性上重要な地域」（岩手県）に選定

【選定理由や内容】

- ・「生物多様性保全上重要な里地里山」（環境省）

伝統的な維持管理手法によって水田環境や雑木林などモザイク状の土地利用が維持されており、カタクリなど里地里山の植物群落が残存している。また、600を超えるため池が点在する独特な景観が形成されており、多様な水生生物の棲みかとなっている。

- ・にほんの里100選（森林文化協会）

中世の稲作景観を継承。小河川、農地、山林が入り組む。萩荘のため池群、中世の稲作景観を継ぐ巖美町本寺地区の風景など、農の歴史が大地に刻まれる。

- ・第一回プロジェクト未来遺産（日本ユネスコ協会連盟）

「にほんの里100選」に選ばれ、日本の生物多様性の保全上、重要性の高い久保川流域（＝久保川イーハトーブ世界）の豊かな生物多様性と里地里山を後世に引きついでいる。

- ・「ため池百選」（農林水産省）

ため池群が周囲の棚田や雑木林と一体となって豊かな水生生物を擁する里山を形成している。

- ・「生物多様性上重要な地域」（岩手県）

古くからの里山景観と、積極的な生物多様性の保全・再生活動が行われている。



写真の説明：久保川イーハトーブ世界の代表景観



写真の説明：玉叢苑自然再生実践・実験池のため池群

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

岩手県一関市萩荘・巖美地域を流れる一級河川、久保川上流約10kmの地域では、現在でも定期的な草刈りや畦焼き、土水路を利用した伝統的な稲作とともに里山の原風景が見られる。また、同流域には約600個のため池が点在し、特に水辺環境を中心とした在来種から構成される生態系、生物多様性が大変良い状態で残っている。当協議会が該当地域にて侵略的外来種防除やビオトープの創出などを行い、保全・再生事業を行う。

【主な植生】

森林＝コナラ林、アカシデ林、アカマツ林、スギ人工林
畦畔＝ススキ草地、低湿地
ため池

【確認された主な動植物など】

- ・維管束植物＝750種
- ・昆虫類トンボ目＝70種（マダラヤンマ、アオハダトンボ、ハッチョウトンボなど）
- ・昆虫類バッタ目＝57種（イボバッタ、ミカドフキバッタ、ヤマトフキバッタなど）
- ・水生昆虫類＝50種
- ・昆虫類チョウ目＝72種（ゴイシシジミなど）
- ・淡水魚類＝22種（キンブナ、ミナミメダカなど）
- ・両生類＝14種（トウキョウダルマガエル、モリアオガエルなど）
- ・鳥類＝128種（サシバ、オオタカ、サンショウクイ、コサメビタキ、ノジコなど）

※注）上記、久保川イーハトーブ世界全域における状況。（）内はサイト内で確認された種



写真の説明：畦の帰化植物抜き取り作業



写真の説明：二次林の湿原に群生するニッコウキスゲ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

- ・供給サービス—二次林間伐、落ち葉掻き→木材、リターの調達—ウッドチップ、燃料、堆肥
- ・調節サービス—二次林間伐→健全な落葉広葉樹林を保全＋定期的な草地や畦焼き＋ため池の水位管理—土砂崩れなどの防災、病害虫抑制、水質保持、CO2吸収による気候調節に貢献
- ・保全再生された自然—自然観察会、研究フィールド、自然体験学習の場などとして企業や大学などに提供

【主な植生】

森林＝コナラ林、アカシデ林、アカマツ林、スギ人工林
畦畔＝ススキ草地、低湿地
ため池

【確認された主な動植物など】

管理される二次林の代表種＝カタクリ、ウラナミアカシジミ、コサメビタキ、サンショウクイ
管理される畦畔の代表種＝ギボウシなど
管理されるため池の代表種＝ジュンサイハムシなど

※注）活動時にサイト内で確認された種も含む



写真の説明：間伐材からウッドチップを調達。（チームエナセーブダンロップ東北社員協力）



写真の説明：間伐後、埋土種子によって再生された植生

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

サイト内における自然再生実践地は、主に二次林や耕作放棄地を利用したビオトープとなっている。このビオトープでは、特に当該地域に生息する希少種（種の保存法指定種、国県指定の絶滅危惧種や当該地域内で個体数が少ない生物）の減少を防ぐための域内保全を行っている。

【確認された希少種】

維管束植物、昆虫類トンボ目（サラサヤンマ、ムカシヤンマ、トラフトンボなど）、水生昆虫類、昆虫類チョウ目、淡水魚類（キンブナ、ミナミメダカなど）、両生類（トウキョウダルマガエル、ニホンアカガエルなど）、鳥類（サシバ、サンショウクイ、コサメビタキ、ノジコ、アカショウビンなど）で多くの絶滅危惧種の生息・生育が確認されている。



写真の説明：写真の説明：耕作放棄地利用のビオトープ



写真の説明：樹木葬第一墓地に生息するサンショウクイ

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】

当該地域には、同じく「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されている巖美町本寺地区が隣接している。

【主な植生】

森林＝コナラ林、アカマツ林、スギ人工林、水田

【隣接・接続する保護地域等】

「巖美町本寺地区」＝曲がりくねった水路や不整形な水田、イグネ（屋敷林）に守られた家々など、800年も昔から変わらない、自然を巧みに利用して築き上げてきた農村風景が広がっている。伝統的な農業形態や土地利用により、昔ながらの土水路も多く、メダカやドジョウなど里地里山に特徴的な魚類のほか、希少種も生息している。（環境省・生物多様性保全上重要な里地里山選定理由参照）

【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

特に、季節による長距離移動、渡りを行う鳥類にとって、自然環境の保全・再生が実施される地域の連続性は極めて重要である。さらには生物相のみなならず、隣接地域間での交流、生物多様性ネットワークの構築も同様である。



写真の説明：本寺地区（骨寺村荘園）の様子

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>〈活動の概要〉 当協議会は、ウシガエルやオオハングウソウ等の侵略的外来種の防除に加え、耕作放棄地と放棄林のビオトープ化を実践してきた。ビオトープには、約50個のため池を造成。間伐と定期的な下草刈りを継続し、埋土種子の発芽を促している。これらの地道な活動により、里地里山らしい景観と生物多様性の再生を実現。また、生物相のモニタリング調査や自然観察会、都市大学や地元紙と連携し、生物多様性と自然共生の重要性を広く社会へ発信している。</p> <p>〈活動目的〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生物多様性に満ちた水辺と里地里山の景観と自然環境の保全 ②在来種から構成される生態系を再生し、環境学習や研究に活用 ③自然共生社会の維持・回復、その重要性を地域内外に発信 ④保全再生作業体験・環境学習を通じて地域内外の交流を活発化 <p>〈活動実績〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・侵略的外来植物の抜き取り防除作業 > 成果：抜き取り開始当初、年間6tのセイタカアワダチソウを防除。現在は2tまで減少し、健全な在来植生が回復。 ・侵略的外来種の排除による溜池環境の保全・再生事業 > 成果：地域的なウシガエル、アメリカザリガニ等の侵略的外来種の封じ込めに成功し、大型水生昆虫の回復。 ・耕作放棄地（放棄林）における生物多様性の保全・再生事業 > 成果：耕作放棄地のビオトープ化により、多様な在来生物が確認されるようになり、水辺と落葉広葉樹林の景観と生物多様性が蘇った。 	<p>【モニタリング対象】 維管束植物、昆虫類トンボ目、昆虫類バッタ目、水生昆虫類、昆虫類チョウ目、淡水甲殻類、淡水魚類、両生類、爬虫類、鳥類</p> <p>【モニタリング場所】 久保川イーハトープ世界、自鏡山</p> <p>【モニタリング手法】 ルートセンサス法、スイーピング法、コドラート法など</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 昆虫類:3月～11月、月1～5回以上。 鳥類：通年、月1回以上 両生類:3月～12月、月5回以上。 その他:数年に1度程度</p> <p>【モニタリング実施体制】 久保川イーハトープ自然再生協議会が中心となって実施。年に数回、大学研究室や専門家がモニタリング調査に協力する。</p>